

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
	板橋区	<p>「MOTENASHIプロジェクト」 板橋区主催のオリンピック・パラリンピック東京大会に向けた人材育成の一環として、区職員と大学生、留学生と一緒に板橋の魅力を見直す取り組み。 10回のワークショップを行い、フィールドワークなどを通じて「地域の魅力を見つける」という一つの目標に向かって区職員、大学生、外国人が連携して取り組んでいく。(10回の詳細は現在取り付け中)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域を知る (板橋経済新聞が講師) 2. 地域の子育てを考える (実際の子育て親子が講師として参加) 3. 心のバリアフリーを考える (日本補助犬情報センタープロデュース) として、3回目のワークで「心のバリアフリー Je-learningを見た上で 障害理解の社会モデルを学ぶとともに、多様性理解を座学で講習。その後、当事者講師 (盲導犬ユーザー2名、聴導犬ユーザー1名、白杖 利用の視覚障害者1名) とグループワークを行い、その後、板橋区役所 内にてフィールドワークを実施。再度、集合研修として各グループから報告を共有。 	<p>1) 板橋区と東京家政大学のコラボ企画「MOTENASHIプロジェクト」始動 https://itabashi.keizai.biz/headline/242/</p> <p>2) 第8回【ママボラン記者投稿】魔法の言葉「何かお手伝いしましょうか？」が築く優しい社会 https://www.jsdrc.jp/ud_repo/no08_ud/</p>
	大阪市長居障がい者スポーツセンター	視覚障害者歩行誘導マットの整備。車椅子使用者や歩行困難者等のバリアとならず通行しやすい新型の誘導マットを設置することで、合理的配慮を行った。その結果、永年の課題を解決できたという喜びの声がメーカーに届いた。	<p>http://www.fukspo.org/nagaissc/spocendayori/onsei_1706.html#notice_new</p> <p>http://www.daishikyo.org/j/j1705/3.html</p>
	独立行政法人国際協力機構東京センター (JICA東京)	宿泊者向けバリアフリー設備の整備として誘導路が不足している問題を新型誘導マットで対応。「視覚障がい者にとってはこれまでの誘導ブロックと遜色がなく、車椅子の車輪が挟まったりガタガタ振動することもない。カートやベビーカーの走行の妨げになることもなく、ハイヒールでのつても気にならない。みんなにやさしい環境を提供できると期待している。」	<p>https://www.jica.go.jp/tokyo/topics/2016/ku57pq00000fkkpn.html</p> <p>http://guideway.jp/story/2018-04-09-844</p>
	東京学芸大学 附属図書館	視覚障害の学生も、その他あらゆる学生も出入りする入口付近に誘導マットを設置。台車などの走行も妨げず、ユニバーサルな環境を整備。障がい学生支援室と連携しての「図書館内での助け合いポスター」作成や開館カレンダーのユニバーサルデザイン化と合わせ、学内での障害への理解を高めた。	<p>http://library.u-gakugei.ac.jp/notice/Kawaraban6.pdf</p> <p>http://guideway.jp/story/2018-03-26-847</p>
	一般社団法人日本身体障がい者水泳連盟 関東身体障がい者水泳連盟	日本身体障がい者水泳選手権大会 (於 千葉国際総合水泳場) や関東身体障害者水泳選手権大会に於いて、誘導路がなかったロビーに誘導マットを仮設で設置、視覚障害のみならず来場した全ての人に向けての誘導を行った。大会によっては視覚障害選手の招集やプールへの誘導に人的ガイドではなく、新型誘導マットを敷くことで対応している。	<p>http://www.kinjogomu.jp/welfare/paraspo.html</p>

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
	東京都障害者総合スポーツセンター	誘導マットを点字ブロックの枝線に設置することで、車椅子や歩行困難者のバリアにならないよう配慮。これまでの点字ブロックは車椅子や歩行困難者のバリアになるため、廊下の壁に平行に設置するだけだったが、新型誘導マットは点字ブロックから直角に設置してもバリアにならないので、トイレ、更衣室、卓球室等、点字ブロックへ枝線として設置。全盲者がトイレ等へ自分自身で行きやすくなった上、色分けによって晴眼者にも男女トイレなどが分かりやすくなった。	http://guideway.jp/instaltag/sports
	都内自治体	行政及び障害者団体が連携し、講義や体験、障害者との交流といった内容の授業を小中学校で実施することで、障害者への理解を深める取り組み。内容としては、障害の内容や医療的ケア、必要な器具等の説明、障害者差別解消法の解説、本人との交流などを実施。	
	読売巨人軍、読売新聞社	巨人軍が行っている社会貢献プロジェクト「G hands」の取り組みとしてオープン戦後に、巨人軍の選手、ファンら総勢130人がバラスポーツの楽しさ、魅力を体験するイベントを開催。選手やスタッフだけでなく、ファンの方々とも手を取り合って支援の輪を広げていくことを目的とし、バラスポーツがより広く知られるように企画。	http://www.giants.jp/G/gnews/news_3913703.html
	日本スポーツ振興センター	14の障害者関連団体とのワークショップにおける意見を踏まえ、障害等に関わらず、すべての人が安心して快適に新国立競技場を利用できる環境を整備。具体的には、競技場内の多目的トイレや休憩室、サイン計画、観戦席、バリアフリー設計等をワークショップを踏まえ整備。	https://a.msip.securewg.jp/docview/viewer/docN00C3081BC6F9561c1cec478e800e3eb9f74efe8ef6ef3c1634e65bc10a87e2421e41ab5f57a7
	成田国際空港	有識者と障害者を交えた、成田空港ユニバーサルデザイン推進委員会を設置し、UD基本計画を策定。今後、トイレのUD化や、カームダウン・クールダウンの整備、接遇研修の充実など、ハード・ソフト両面からユニバーサルデザインの推進に取り組む。	https://a.msip.securewg.jp/docview/viewer/docN00C3081BC6F98d96566a566d581c13068cb1304d7f9d72aa0ded236a00ca9da3e257e7ccaeaf
	東京国際空港ターミナル	羽田空港国際線ターミナルでは、設計段階からユニバーサルデザインワークショップ等を開催している。また開業後も定期的に空港内のユニバーサルデザインの評価を実施しており、障害当事者からの多数の意見を頂戴し、対応策を取りまとめ、改善を図っている。	http://www.tiat.co.jp/environment/universal.html
修正	公益財団法人 日本補助犬協会	<p>「心のバリアフリー検定」をスタート</p> <p>「心のバリアフリー」という考え方の普及と浸透を図るため、弊協会が2014年11月から実施している「補助犬ガイド士講座」の初級として「心のバリアフリー検定」を設け実施している。</p> <p>この検定は、次のとおり「講義」「デモンストレーション」「ディスカッション」を行たうえで、「検定テスト」を実施し、合格者には「認定証」を授与する。</p> <p>・プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 心のバリアフリーについての基本講義 2) 障害当事者講師による講習 3) 補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）のデモンストレーション 4) ディスカッション 5) 検定テスト <p>・開催日:2018年12月14日 開催場所:衆議院議員会館 参加者数:48名</p> <p>・開催日:2019年2月4日 開催場所:六本木ヒルズ ヒルズクラブ 参加者数:47名</p>	https://www.hoiyoken.or.jp/about/guide/documents.html

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
修正	公益財団法人 日本補助犬協会	補助犬フォーラム2019を開催 “共生社会、補助犬受け入れ拒否ゼロ”を目指して2012年から実施している「第6回もっと知って補助犬キャンペーン」のコアイベントとして「補助犬フォーラム2019」を開催した。 ・テーマ “誰一人取り残されない社会”への提案 ・開催日 2019年2月15日 ・開催場所 衆議院第1議員会館 ・参加者数 150名 ・プログラム 第1部：「心のバリアフリー検定」について 第2部：「補助犬シンポジウム」 1) 補助犬育成の現場から 2) 補助犬ユーザーの立場から 3) パネルディスカッション テーマ：「ユニバーサルデザイン2020 行動計画」加速化への取り組み 4) ワークショップ：点字作成体験・手話講座・車椅子体験・視覚障害体験を実施	https://www.hoiyoken.or.jp/?p=1525
	オムロン京都太陽	職能的重度障がい者の雇用機会を創出すること、障がい者雇用ノウハウを広く社会に提供すること、等を使命と定めて、企業と福祉の両面を同時に発展させている。 具体的には、一人ひとりの能力を最大限に引き出せるよう、障がいの程度や内容を把握し、安全性はもちろん効率と生産性も兼ね備えた、誰もが働きやすい環境づくりに努めている。	https://www.kyoto-taiyo.omron.co.jp/
	日本理化学工業	全体の70%以上が知的障がいのある社員（平成31年2月現在）であり、今ある能力で仕事ができるように、そして、より能力を高めていけるように、作業方法の工夫・改善をおこない、環境作りに努めている。加えて検査治具の改良など社員それぞれの能力に合わせた作業標準をつくっている。	http://www.rikagaku.co.jp/index.php
	大阪高速鉄道	大阪モノレール線の18駅中16駅に常設型の乗降用段差解消スロープを設置。残り2駅に関しては、ホームと車両床面との段差を縮小する整備を実施。	大阪モノレール線 http://www.osaka-monorail.co.jp/ 人にやさしい常設型・乗降用スロープの設置について http://www.osaka-monorail.co.jp/jpn/pdf/suropu.pdf バリアフリー情報 http://www.osaka-monorail.co.jp/ekimono/barrierfree.html
	認定特定非営利活動法人 障害者放送通信機構	1998年より20年以上にわたり、聴覚障害者の放送における情報アクセシビリティの向上のために、字幕と手話を付与した放送を続けてきた。 IPTV通信を活用した専用受信機「アイ・ドラゴン4」は、テレビ画面に手話通訳画面および字幕を合成し、聴覚障害者はリアルタイムで情報を得ることができる。また、この技術を活用して、多言語の手話および字幕や、視覚障害者のための音声解説や知的障害者等のためのわかりやすい字幕や音声解説を付与することも可能なので、災害時の緊急放送にも対応でき、多くの視聴者の情報アクセシビリティを高めることができる。	http://medekiku.jp/

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
	一般財団法人 全日本ろうあ連盟	世界ろう連盟理事も出席した「第65回全国ろうあ者大会in福岡」において、スクリーンに国際手話と日本手話言語を映し出す情報保障を行った。これにより、日本及び諸外国の多くのろう者が情報を得ることができるなど、情報アクセシビリティが高まった。	連盟 https://www.jfd.or.jp/70kinen/taikai 大会 http://65th-fukudeaf.wixsite.com/fukuoka
	FIFA（国際サッカー連盟）	FIFA公式サイトにおいて、ワールドカップ（2014年ブラジル大会・2018年ロシア大会）期間中の大会速報を英文のみならず国際手話で報じた。これにより、国籍に関係なく多くのろう者が情報にアクセスできただけでなく、大会への関心が高まるなど、盛り上がり結び付いた要因の1つとして知られている。	https://www.fifa.com/worldcup/videos/international-sign/
	SoundUDコンソーシアム （運営主体・事務局：ヤマハ）	SoundUD推進コンソーシアムは、どこでも、だれにでも、音声の情報が等しく伝わる社会の実現を目指して様々な活動を行っている。各会員が音のユニバーサルデザイン化を推進するための支援を行い、言語や聴力の違いによる情報格差、差別の解消を社会全体で推進していく。このSoundUDは、第1例のIPTVシステムと連携が可能で、現在調整中である。	https://www.yamaha.com/ja/news_release/2019/19030401/
	ホテルルートイン佐賀駅前	宿泊施設におけるテレビ字幕放送の対応 宿泊予約の際、「聴覚障害者であること」を伝えていたので、テレビを付けた時点で、既に「字幕表示→設定済」となっており、細やかで行き届いた対応であった。	https://www.jfd.or.jp/2017/12/11/pid17176
	一般財団法人 全日本ろうあ連盟	9月23日 手話言語の国際デー 記念イベント 2017年12月19日、国連総会において、9月23日が「手話言語の国際デー（International Day of Sign Languages）」とすることが決議された。これは、世界ろう連盟が、カリブ海に浮かぶ国家アンティグア・バーブーダをはじめとした国連加盟国に働きかけた結果、半数を超える98カ国が共同提案者となって無投票で承認されたもの。決議文では、「手話言語の国際デー」を通して、手話言語が音声言語と対等であることを認めるとともに、ろう者の人権の十分な保障を目指して、国連の加盟国が社会全体で手話言語についての意識を高めるための手段を講じることを促進することとしている。 制定後初となる今年の9月23日、世界ろう連盟アジア地域事務局は、アジア各国のろう者や在日大使館関係者と一緒に「手話言語の国際デー」を記念するイベントを、Googleの協力のもと、日本財団との共催により実施した。 * 記念イベントの様子は、YouTubeにてライブ配信。YouTubeのライブ配信では国際手話・英語・英語字幕のみが配信され、アイドラド4では日本手話言語・日本語・日本語字幕で配信。 当日中継URL： https://www.youtube.com/watch?v=dq5xDR9l25g	https://www.jfd.or.jp/2018/09/18/pid18218

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
	一般財団法人 全日本ろうあ連盟	<p>「デフリンピック・フェスティバル」</p> <p>2019年3月2日（土）に神奈川県横浜市の新都市ホールにて開催。当日は約1,000人の方に来場いただき、様々なイベントやアトラクションのステージで盛り上がりました。</p> <p>デフリンピックの啓発やミニ手話教室などのブースも出展し、参加者に対してデフリンピック・デフスポーツを知ってもらいイベントとなりました。</p> <p>また、ステージはYouTubeでも生中継を行い、当日は約600人の方にライブ配信でご覧いただきました。YouTubeには配信の様態をアーカイブとして残していますので、いつでもお楽しみいただけます。</p>	<p>https://www.jfd.or.jp/dlpcfes-yokohama32 YouTubeアプリなどでご覧になる場合のURL → https://youtu.be/skn00jo94vU ※オープニングのHANDSIGNは配信されていません。実際の配信開始は動画の25:00頃から始まっています。</p>
	鳥取県	<p>鳥取県におけるUDタクシー整備事業</p> <p>日本財団と鳥取県が同県内で進めているユニバーサル・デザインタクシー（以下UDタクシー）の整備事業が「官民一体となった先駆的なタクシーのバリアフリー化」として高く評価され、本年度の「国土交通省バリアフリー化推進功労者」に選ばれた。また環境整備の一環として、コミュニケーション手段の配慮と理解の浸透を目的に、全日本ろうあ連盟が推進している「筆談マーク」を導入したすべてのUDタクシーに貼付けされており、あわせて、UD研修において、ろう者等の接遇訓練も行っている。また鳥取空港・米子空港行きのバスや、鳥取空港・米子空港港のカウンターにも「筆談マーク」が設置されている。</p>	<p>https://www.jstage.jst.go.jp/article/jspo/33/4/33_246/_pdf/-char/ja</p> <p>https://www.jfd.or.jp/2016/12/01/pid15854</p>
	明石市	<p>明石市は、誰もが暮らしやすい街の実現に向けた5つのSTEP（①手話言語の確立、②多様なコミュニケーションの促進、③障害差別解消条例の制定、④合理的配慮への公的助成、⑤誰もが暮らしやすまちへ）と掲げ、独自のまたは先進的な事業を多数進めている大変特色のある市である。「明石市障害者に対する配慮を促進し誰もが安心して暮らせる共生のまちづくり条例」、「明石市手話言語・障害者コミュニケーション条例」「共生社会ホストタウン」「アカシノミクス」等。</p>	<p>https://www.city.akashi.lg.jp/fukushi/fu_soumu_ka/sabetsu/seitei.html</p>

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
	日本財団	<p>①電話リレーサービス事業 電話リレーサービスとは、聴覚障害者と聞こえる人を電話リレーサービスセンターにいる通訳オペレーターが「手話」や「文字」と「音声」を通訳することにより、電話で即時双方向につながるサービスです。 日本財団は2013年度より耳の聞こえない人など音声でのコミュニケーションに困難のある人々も、平等に電話を使えるようにするための「電話リレーサービス」を実施しています。 このサービスは、既に世界の20カ国以上で持続的な制度の下、無料で提供されていますが、残念ながら日本ではまだ制度化されていません。 2013年9月より開始したモデルプロジェクトは、全国約7,500名の方に利用していただき、月に25,000コール以上のサービス提供をしています（2018年6月現在）。 電話リレーサービスは新聞、テレビなどマスコミでも取り上げられ、参議院総務委員会や予算委員会、厚生労働委員会などでも議論されていますが、一般にはまだまだ認識されていないのが現状です。</p> <p>②手話フォンの設置 多くの方に電話リレーサービスを知っていただくために、手話を使って公衆電話のように電話が利用できる「手話対応型公衆電話ボックス『手話フォン』」を全国の主要空港をはじめ、6カ所に設置しました。空港等を利用する一般の人々が手話フォンを目にすることによって、聴覚障害者の電話利用の必要性に気づき、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け日本社会のバリアフリー化が一層進展することを目指しています。</p>	<p>https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/telephone_relay</p>
	総務省消防庁	<p>Net119緊急通報システム</p> <p>Net119緊急通報システムは、音声による119番通報が困難な聴覚・言語機能障害者が円滑に消防への通報を行えるようにするシステム。 スマートフォンなどから通報用Webサイトにアクセスして、消防本部が消防隊や救急隊をどこに出動させるべきかを判断するために必要な「救急」「火事」の別と、通報者の位置情報を入力すれば、即座に消防本部に通報が繋がり、その後にテキストチャットで詳細を確認する仕組みとなっている。</p>	<p>http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/jouhou/net119/index.html</p>
	日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）	<p>日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）は全国の高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生の支援のために立ち上げられたネットワークで、事務局がおかれている筑波技術大学をはじめ全国の大学・機関の協力により運営されている。高等教育支援に必要なマテリアルの開発や講義保障者の養成プログラム開発、シンポジウムの開催などを通して、聴覚障害学生支援体制の確立および全国的な支援ネットワークの形成を目指している。</p>	<p>http://www.pepnet-j.org/web/</p>

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
	ANAグループ、成田国際空港 (NAA)	<p>発達障がいのあるお子様向けに、実際の空港・飛行機を使用した「体験搭乗プログラム」を、成田空港で開催。一般社団法人 日本発達障害ネットワーク (JDDnet) 監修・協力のもと実現した、日本初の取り組み。</p> <p>2018年は17家族、54名のお子様とご家族が参加、2019年は参加者をお子様に限定せず、5歳から48歳までの発達障がいの当事者とそのご家族、総勢43名が参加しました。</p> <p>本プログラムでは、空港での搭乗手続き、保安検査、機内への搭乗・着席、降機、飛行機を利用する一連の流れを体験。成田空港で働くグランドスタッフが、搭乗手続きや保安検査場での検査方法、搭乗の順番などについて丁寧に説明。搭乗口前の待合室には、NAAがカーンダウン・クールダウンのための設備を設置し、お子様が安心してプログラムに参加できるように工夫。駐機中の機内へ搭乗した後は、客室乗務員によるドリンクサービスを実施。また機長と客室乗務員から握ることで気分が落ち着く効果があるオリジナルおもちゃ、「ぶにゅ丸くん8」をプレゼントの一つとして2018年に配布。</p>	<p>https://www.ana.co.jp/ana_news/2018/02/08/20180208-2.html</p> <p>https://www.ana.co.jp/ana_news/2019/03/15/20190315-1.html</p>
	ANA	<p>(1) グループ社員を対象としたユニバーサル研修やセミナーの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全グループ社員を対象にユニバーサルデザインを理解促進するためのe-learning、直接お客様と接点のない間接部門の社員に対して、実践型の実技研修を実施している。 ・四半期に一度、「心のバリアフリーセミナー」を開催し、障がいのあるアスリートや学識経験者、車いす使用者などを講師に招き、幅広い視点での気づきを得ているほか、身の回りにおけるバリアに対する、社員の意識向上に努めている。 ・客室乗務員、空港スタッフを対象に、障がい当事者であるグループ社員を講師としたセミナーや、手話講座を開催し、障がいの理解、サービスにおける気づきを得ている。 <p>(2) 「ユニバーサルなサービス」の実現に向けた継続的な改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・搭乗手続きカウンターのローカウンター化 ・金属探知機に反応しない樹脂製 (非金属) 車いす (モルフ) の導入 ・空港ラウンジのユニバーサル対応 車いすを利用するお客様や、座ったままでお手続きをご希望のお客様に配慮した高さのカウンターの設置、車いす優先座席の設置、ラウンジ内移動導線などのアクセシビリティ向上 (通路幅の拡大)、多目的トイレ・触知案内図を設置している。 ・車いすで利用可能な機内化粧室の設置 ・機内で提供するエンターテインメントプログラムに音声・字幕対応を行っている。 ・機内誌の点字化と朗読音声の収録を25年以上続け、お客様から高い評価を受けている。 <p>(3) 発達障害のある方に配慮した情報提供や体験搭乗プログラムの開催</p> <p>慣れない環境に不安がある発達障害の方に配慮し、事前の準備に活用できる「そばすブック」と疑似体験できるビデオを作成した。また、発達障害のあるお子様と御家族を対象に、実機を使用した搭乗体験プログラムを国内で初めて実施した。</p> <p>(4) 視覚に障がいのある方が安心して飛行機にご搭乗いただくための体験会を実施</p> <p>公益社団法人「東京都盲人福祉協会」(東京都新宿区) に所属する日本盲人会連合の方を対象に緊急脱出訓練体験会を実施した。(2018年11月3日実施)</p>	

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
	アクセンチュア	<p>社会貢献活動への社員参画</p> <p>1 : equalto 2012年に、NPO法人と共に立ち上げたequalto(イクォルト)ブランドの支援を行っている。障がいのある人の社会参加と自立支援を視野に入れたデザインコンペでは、就労継続支援事業所で生産可能な体制を前提に、つくり手にとってのバリアフリーを実現しながら消費者にとって高い付加価値を持つデザインを募集。受賞作品は、equaltoブランドの商品として発売されている。季節の行事/イベントに合わせたequalto商品の社内販売では、各オフィスで実際の商品の販売に加え、「equaltoのコンセプト・取り組み」「equalto商品」がより多くの社員の目に触れるよう、equaltoの持つストーリーとともにメールやオフィス掲示物で告知、また定期的にプロモーション動画を社内で投影し、社員の意識向上を図っている。 equalto公式HP→ https://www.equalto.or.jp/</p> <p>2 : パラアスリートの自己発信能力向上支援 パラスポーツを通じ、インクルーシブな社会を実現するというビジョンを基軸とし、パラアスリートの方々を対象に、自己発信能力の向上を目的としたトレーニングプログラムの共同開発を行っている。社員は、プログラム開発にプロボノとして参画したり、ボランティアとしてリーダーシップが講師として参画したり、様々な機会を通じて交流している。社員は普段からコンサルティング業務の一環としてプレゼンテーションを行うことが多く、プレゼンテーションスキルの伝授は本業の知見を活かした社会貢献となっている</p>	
	富士通	<p>①従業員を対象に、高齢者や障害者のサポートに関する理解を深める研修を実施 ・従業員研修の一環として、高齢者や障害者に対する理解を深め、声のかけ方やサポート方法などの基本を習得する講義を、障害のある従業員が講師となり実施している。 富士通本体役員、新入社員、新任幹部社員は全員研修受講済み（平成29年から実施、約2400名受講済み）</p> <p>②国内の全従業員に対して、心のバリアフリーに関するe-learningを実施 ・心のバリアフリーの理解、個人モデルと社会モデル、合理的配慮について、障害のある従業員からの講話、高齢者や障害者のサポートに関する理解などを学習（平成29年12月～平成30年4月実施、国内の全従業員8万人受講、修了率93.5%）</p> <p>③障害のある従業員が講師として社内外で活躍できるよう育成するための研修を実施（平成29年5月実施）</p> <p>④障害のある従業員が働きやすいような職場環境の整備 ・身体障害、知的障害等のある従業員が働きやすいように、職場環境や働き方を工夫している。 （職場環境における合理的な配慮としてディスプレイを複数台利用、テレワーク実施、パソコン読み上げソフト、手話通訳者やLiveTalkの導入等）</p> <p>⑤障害のあるお客様に配慮したサービスの提供 ・高齢者や障害のあるお客様にも使いやすい、らくらくホン、らくらくパソコンの提供や視覚障害者や車いすの方にも使いやすいA T M（FACT-V）の開発、発達障害のお子さんの気持ちを素直に伝えられるソフト（きもち日記）、聴覚障害の方が髪に装着した「Antenna」の振動により周囲の状況を感じることのできるデバイス開発等</p>	

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
	日本生命保険	<p>①多様な人材の活躍推進および多様な人材を受容する風土醸成取組として、従業員向け研修・セミナー等を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 入社1年目の従業員を対象に、特例子会社ニッセイ・ニュークリエーション（以下、NNC）へ訪問し、当事者と接点を持つ機会を提供。（2016年度～）2015年以前は、NNCへ訪問せずに当事者が研修講師として来社。 職場への受け入れを想定し、東京ボランティア・市民活動センターやNNCと共同で、障がい者当事者との交流や障がい理解する取組を強化。障がい体験（2017年度～）や、管理職向けセミナー、肢体不自由の職員による講演会（2018年度）を実施。 <p>②消費者志向自主宣言にもとづき「お客様の声」を経営に活かす仕組みによる、きめ細やかな顧客対応サービスを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 来店窓口への「耳マーク」掲示、コミュニケーションシート、筆談ボードを設置。42店舗には番号表示版の設置、28店舗には簡易スロープ設置、39店舗にはコミュニケーション導入、24店舗には縁取りシール貼付、17店舗には多目的対応トイレがある。 NNCの障がいのある社員が来店から手続きまでの接客を受けるモニター調査を実施。その後、来店窓口の職員100名を対象に、モニター調査結果を踏まえた障がいのある方への対応方法に関する研修をNNCの障がいのある社員が実施（2018年12月） <p>③東京2020オリンピックパラリンピックゴールドパートナーとしての貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京2020オリンピックパラリンピックを盛り上げるべく、パラスポーツ観戦や車いすバスケットボールやボッチャ体験などのパラスポーツ体験を推奨。これまでにのべ1.5万人以上が観戦・参加している。（2016年度～） 全国47都道府県を巡回し、車いすバスケットボールの体験会やバスケットボールの寄贈を行う、「日本生命 みんなの2020全国キャラバン」を組織委員会と共催で開催（2018年度～） <p>④NNCについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 1993年に保険業界初の特例子会社を設立。当社からの委託業務を通じて安定した就労の場となっている。 	
	東京ガス	<p>1. 施設のユニバーサル検討</p> <p>①「ガスの科学館（がすてな-に）」のユニバーサル化に向けた改修</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設改修に向けた、障がい当事者（視覚、聴覚、車いす）と専門家を交えた検討の実施 特別支援学校の防災訓練及び施設見学（都立鹿本学園、都立町田の丘学園） <p>2. 自社イベントにおけるバリアフリー化</p> <p>①「新豊洲オータムフェス」におけるユニバーサルトライアル（10/27、28）</p> <ul style="list-style-type: none"> イベントにおける障がい者（視覚、聴覚、肢体不自由者（徒歩、車いす））による会場レイアウトのチェック及びアドバイス 仮設多機能トイレの設置 車いす目線、弱視に対応した案内の展示 イベントスタッフによるきめ細やかな対応の実施（当日スタッフは“ASK ME”のピブスを着用しお客さまが声をかけやすい雰囲気づくりを実施） 	

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
	中外製薬	<p>■従業員研修 ・新入社員対象 毎年、患者さんや障がい者アスリートなど当事者を講師に迎えて、研修を実施。一方的に話を聞くだけではなく、グループに分かれてディスカッションを行い、相互理解と自分も他人も大切にすることに重きをおいている。</p> <p>■障がい者スポーツの推進を通じた共生社会推進 従業員やその家族を対象に障がい者スポーツの体験会を実施。車椅子ソフトボール、デフフットサル、ブラインドスポーツ（サウンドテーブルテニス、フロアバレー、ゴールボール等）を体験。 また社外向けの障がい者スポーツ体験会や競技大会でのボランティア機会の提供を行う。車椅子テニス、車椅子ソフトボールやチェアスキー等。これら体験やボランティアを行うことで、障がいに対する理解を促したり、障がい者スポーツを通じて共生社会とは何か考える機会を提供している。</p>	
	三菱電機	<p>(1) 取り組みの背景 内閣官房のユニバーサルデザイン2020関係閣僚会議の「ユニバーサルデザイン2020行動計画」を受けて、当社も東京2020大会のパートナー企業として、心のバリアフリーの従業員への理解を図るため「三菱電機Going Up セミナー」を18年度から実施。</p> <p>(2) 仕組み・内容 ・人事部、総務部と東京オリンピック・パラリンピック推進部が連携してセミナーカリキュラムを開発。 ・㈱ミライロと共同での開発を行なった。 ・集合型セミナーとe-learningの2形態で展開。 ・e-learningは、PCを保有する従業員向けで、パラリンピックの目的・価値、多様性理解や共生社会の考え方などの基礎知識の習得 ・集合型セミナーは、障がい当事者講師による講義、車いすユーザーや視覚障がい者の心理や適切なサポート方法を学ぶ映像資料やサポート体験、グループワークでの理解を深める。当社の心のバリアフリー実践例も紹介。</p> <p>(3) 実施期間 ・2020年に向けて集合型セミナーを全ての事業所で実施する。 ・e-learningは、18年度7～9月に実施。PC保有の従業員約37,000人が受講済み ・集合型セミナーは、18年度は16回、16事業所で実施。約900名が受講予定。</p>	
	三井住友海上火災保険	<p>障がいのある社員が働きやすい職場環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者雇用に積極的に取り組み、現在約340名の障がいのある社員が在籍している。 ・東京、名古屋、大阪に、障がい者の活躍を推進する組織「チームWITH」を設置、全国の障がいのある社員の就労支援、職場環境整備に 取り組んでいる。主な活動は以下のとおり。 ・障がい者本人や上司からの個別相談対応（電話・面談）、アンケート実施 ・補助機器（画面読み上げソフト、拡大読書器、筆談ボード等）の配備 ・聴覚に障がいのある社員を対象とした、個別研修の企画・運営 <p><2017～18年度の新たな取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声認識アプリの配備 ・社内向け衛星放送の字幕化、オンデマンドツールの字幕化 ・全社員向け 障がい者活躍推進ハンドブックの作成 等 <p>・障がいの状況に応じた配属や担当業務の付与、職場やチームWITHのサポートなどにより、在籍者の平均勤続年数は全体平均とほぼ同じ、12年となっている</p>	

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
	トランスコスモス	<p>①バリアフリーな職場環境づくりへの取り組み 聴覚障がい者社員（約80名在籍）の情報保障のため、手話通訳者の社員が1名在籍、音声認識ツールも導入。 精神障がい者社員（約90名在籍）の職場定着支援のため、精神保健福祉士の社員が2名在籍し、定期面談等でメンタルケアサポート。</p> <p>②地域貢献（心のバリアフリーへの理解促進） 渋谷区社会福祉協議会主催の「障がい理解講座」（下肢障害編・聴覚障害編・視覚障害編）にて、障がい者の社員自ら講師となり、様々な障がいがある方とのコミュニケーションや配慮等について講演。</p> <p>③教育支援（心のバリアフリーへの理解促進） 小・中学校やインターナショナルスクールで「福祉体験」や「手話体験」の出張授業を実施。 障がいへのサポートや聴覚障がい者とのコミュニケーションについて学んでもらっています。 障がい者の社員が母校（ろう学校、特別支援学校等）での講演活動も実施しています。</p>	
	NTT	<p>◆内容 東京2020の成功を見据えた共生社会への意識改革を目指し、政府として推奨している「心のバリアフリー」について、N T Tグループとしても、社会的責務を率先して果たしていく観点から、様々な障がい者が働く特例子会社のN T Tクラリティが、その強みを活かした「心のバリアフリー」研修を設定・展開し、グループ各社への理解促進を推進している。</p> <p>◆仕組み・工夫 基本プログラム ・バリアフリーに対する認識の確認 ・障害の社会モデルの理解 ・困りごと痛みへの気付き ・法律の位置づけ ・行動するために考える</p> <p>+</p> <p>アドオンプログラム（参加者・目的等に応じてカリキュラム・アドバイザーを変更する等柔軟にカスタマイズ） ・障がい者雇用の現状、課題 ・精神障がい概要・発達障がい体験談 ・障がい体験（当事者と共同体験） ・障がい者への配慮事項等</p> <p>身体（肢体不自由、視覚、聴覚）、精神等障がい当事者がアドバイザーとなり受講者と交流しており、研修カリキュラムについても、特例子会社ならではのノウハウを生かし、実事例を多く紹介。</p>	


	実施者	実施内容	参考資料・URL等
	K N T - C Tホールディングス	<p>“旅することをあきらめない”をテーマに杖・車いすをご利用の方でも安心して参加できる旅行パッケージを20年以上に亘って造成。</p> <p>四肢障がいのみならず視覚障がいをお持ちの方向けには別途視覚障がい者向けのツアーを造成。観光地を観るのではなく、触れる、匂うといったほかの感覚で楽しんでいただけるツアーを受け入れ先の事業者様と協議しながら作り上げている。</p> <p>なかでもツインリンクもてぎ様の協力によって実施する、視覚障がい者のための自動車運転体験ツアーは全盲の方が盲導犬とともに自らハンドルを握ってドライブできる唯一無二の機会として多くのリピーターにx支持いただいている。</p> <p>障がいを持ったお客様の旅行参加においては、通常のツアーに比べてサポート役の人出がかかり、結果として参加者の旅行代金に跳ね返り参加のバリアをつけていた実情がある。そこでツアー参加者に旅行を楽しみながらサポートもいただくトラベルサポーター制度を確立。この取り組みは昨年の第4回ジャパンツーリズムアワードにおいて「U N W T O倫理特別賞」を受賞した。</p>	
	J T B	<p>JTB主催で国、自治体、学校、組織団体等と連携して「心のバリアフリー」の理解促進を目的としたシンポジウム開催。</p> <p>①「パラスポーツを通して考える 心のバリアフリー」シンポジウム開催 2016年11月に横浜市、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会、日本財団パラサポセンターと連携して開催。</p> <p>②「発達障害を手掛りとして考える 心のバリアフリー」シンポジウム開催 2017年12月に川崎市、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会、日本発達障害ネットワーク等と連携して開催。</p> <p>③「ホストタウンから広める 心のバリアフリー」シンポジウム開催 2018年11月に文京区、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会、東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センターと連携して開催。</p> <p>【概要】午前セミナー</p> <p>①企業・自治体向け「心のバリアフリー」研修 経済界協議会と東京大学で共同プロジェクト「心のバリアフリー」研修者養成トライアルプログラム</p> <p>②地域関係者向け「心のバリアフリー」研修 経済界協議会も会議に参画し内閣官房で制作した「心のバリアフリーを学ぶ」と「ボランティア研修用」のアニメーション教材を利用した研修</p> <p>・「心のバリアフリー」、「ホストタウン」の取組に関する展示など</p> <p>午後シンポジウム</p> <p>①基調講演「心のバリアフリー」とは 東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター 星加准教授</p> <p>②基調講演ホストタウンとして取組む「心のバリアフリー」文京区長</p> <p>③パネルディスカッション：ホストタウンから広める「心のバリアフリー」</p> <p><登壇者> 内閣官房、文京区、経済界協議会、パラリンピアン、藤田観光、JTB</p>	

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
	日本航空	<p>①接客に携わる社員を対象として接客研修を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港スタッフ・客室乗務員ともに、すべての社員を対象にプライオリティゲストサービスという授業を設けている。障がいをお持ちの方へ接する際のマインドやエチケットを学ぶほか、障がいのあるお客さまへの寄り添い方・お手伝いの方法を実技も含めながら学ぶ場を設定している。空港部門は社内のサービス介助士資格者を活用した全空港スタッフへの教育による人材育成を2010年より開始し、現在も継続している。空港部門、客室部門とも、毎年リカレント教育を行っている。 (※) サービス介助士資格 = 公益財団法人日本ケアフィット共育機構認定。高齢者や障がい者へのおもてなしの心と介助技術のための個人資格。 <p>②障がいのあるお客さまに配慮したサービスの提供</p> <p>誰もが快適に楽しめる空の旅を目指し、以下設備の導入に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすご利用のお客さまがスムーズに保安検査場をご通過いただけるように木製車いすを国内空港に導入(2011年1月～)。 ・耳が不自由な方のほか、多くの方々により言葉や音楽をはっきり届けることができるミライスピーカーを国内空港に設置(2016年8月10日～)。 <p>③盲導犬、補助犬の使用者が安心して飛行機にご搭乗いただくための体験会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本盲導犬協会ユーザーの会 緊急脱出訓練体験会(2018年6月14日) <p>日本盲導犬協会ユーザーの会の方12組を対象に救難訓練センターを利用して、酸素マスク着用や安全姿勢、救命胴衣の着用、救命ボート体験、脱出スライド着席体験等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助犬ユーザー向け空港体験会(2018年10月6日) <p>成田国際空港にて補助犬ユーザーの方を対象に搭乗手続き、保安検査場、搭乗口までの移動と飛行機に搭乗するまでの一連の流れを体験いただくツアーを開催した。</p>	
	大日本印刷	<p>◆支援してほしい人と支援したい人をつなぐサービス「手助けサポートサービス」を無償で提供</p> <p>「手助けサポートサービス」は、移動等に関して困りごとを抱えた人と、手助け可能な人をスマートフォンでつなぎ、簡便なコミュニケーション手段を通して、具体的な行動をサポートするサービスです。</p> <p>手助けを必要とする人は、LINEの専用アカウントを通じてスマートフォンから必要な状況を発信すると、周囲のサポーター（手助けをしたい人）のLINEにメッセージが届きます。サポーターはLINE ChatBotを通じて手助けを必要とする人の状況が分かり、具体的な行動を起こすことができます。</p> <p>手助けをしてもいいと考えていても、手助けを必要としているのかが分りにくい場合には、なかなか行動を起こせないと感じている人が多く、このようなマッチングサービスがあることで“心のバリア”を少しでも取り除くことができれば、ユニバーサル社会実現に向けて前進できると考えています。</p> <p>このサービスを通して、人々の多様なニーズや期待をより広く把握するとともに、「手助けを必要とする人」と「手助けする人（サポーター）」の相互理解を促し、「心のバリアフリー」の普及に貢献していきます。</p>	
	佐賀県嬉野温泉	<p>温泉地におけるバリアフリー、ユニバーサルデザイン化の好事例。</p> <p>佐賀・嬉野バリアフリーツアーセンターを中心に活動しており、お客さんからの問い合わせに、センターがお客さんの身体の状態やニーズにあわせて、「やさしい旅館」の中から、最も適した宿を紹介（無償）。</p> <p>またヘルパーさん2人が入浴を介助をする入浴介助サービス制度（5000円）もある。</p> <p>これから「民間救急」と提携して、入院中の患者さんもお受け入れていく。</p>	http://uresino.net/
	日本トラベルヘルパー協会	<p>介護旅行に特化し、高齢者、身体の不自由な方の旅をサポートする</p>	https://www.travelhelper.jp/

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
	山梨県 富士レークホテル	全七十四室のうち二十三室が、室内に段差がないバリアフリールーム。それぞれの部屋には多機能トイレと電動リクライニング式ベッドを設置。車いすの人も使いやすいよう、ベッドの間は広くとられている。「レークビュー貸切風呂」には入浴用リフトがあり、浴場用車いす（シャワーチェア）でリフトの横まで移動し乗り換えることができ、自力での入浴が難しい人も、河口湖を眺めながら温泉でくつろぐことができる	https://www.tokyo-np.co.jp/article/metropolitan/list/201807/CK2018072102000182.html
	島根県 なにわー水	「病院のような部屋ではなく、旅館らしくすること」にこだわった温泉。デッキに付いている露天風呂から湖が一望でき、必要ならシャワーキャリーも設置。全身にあたるシャワーもある。さまざまな障害を学び、障害のある方を手助けする「あいサポーター」のスタッフが笑顔で歓迎する。	https://www.tokyo-np.co.jp/article/metropolitan/list/201811/CK2018111702000172.html
新	仙台市	バリアフリー化された津波避難タワー等による、高齢者・障害者等にも対応した面的避難エリアの実現 ・東日本大震災を教訓に、津波到達予想までの45分間に安全、確実に避難できるよう、避難施設の配置や構造、避難方法などについて検討し、平成25年3月にまとめた「避難施設整備の基本的な考え方」に基づき、住民が徒歩で避難できるよう、新たな津波避難施設として、津波避難タワー6か所、消防団施設を併設した津波避難ビル型5か所、既存小中学校屋上に直接上がる津波避難屋外階段2か所、計13か所を整備。本事業に対し、第10回（平成28年度）国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰受賞	
新	仙台市交通局	計画段階からの障害当事者参加による、地下鉄車両と駅舎のバリアフリー化の実施 ・地下鉄南北線に加えて東西方向の軌道系交通機関として骨格交通軸を形成すべく整備された仙台市の基幹プロジェクトとして、市南西部の八木山地区から都心部の仙台駅付近を経て市東部の業務地区を経由しえ新井地区へ至るルート、営業キロ13.90Km、13駅を約30分で結ぶニアモーター式地下鉄を整備。計画段階から障害当事者の参加のもと意見聴取を行い、設計等に反映させた。その結果、車いすでも介助無しで乗降できるなど、車両と駅舎の双方において最先端のバリアフリー化がなされた。第10回（平成28年度）国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰受賞。	

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	社会福祉法人日本視覚障害者団体 連合（旧・日本盲人会連合）	<p>【弱視者に対する理解を進める試み】 視覚障害者の7～8割を占めると言われている「弱視（ロービジョン）者」は、その者の見え方が人によって大きく異なることから、必要とする支援が大きく異なっている。 そのため、周りからの理解が得られにくく、必要とする支援が受けられない傾向にあり、多くの弱視者が「困り事」を抱えながら生活をしている。 日本視覚障害者団体連合（旧・日本盲人会連合）では、このような「困り事」を解決するために、弱視者に対する理解を進める以下の試みを実施した。</p> <p>（１）弱視に関する困り事の整理 ＜報告書の作成＞ 平成27年12月より弱視の当事者が集まる「弱視に関する懇談会」を開催し、弱視者の困り事についての意見交換を定期的に行った。 意見交換で集められた困り事は、同懇談会で整理され、平成30年12月に報告書「見えづらい・見えにくい人のくらし」としてとりまとめを行った。 この報告書は、弱視の当事者視点で困り事を体系化した資料となり、弱視者に対する理解を促す貴重な資料となった。 そのため、発行後、全国の各種関係機関への配布、ホームページへの掲載等を行い、弱視者の困り事を理解すること、その困り事に対する支援の手が必要であることを、幅広く周知した。</p> <p>（２）弱視問題の解決を進めるための組織の設立 ＜弱視問題対策部会の設立＞ 上記（１）の試みを全国的に広めるため、全国の代表者が参加する「弱視問題対策部会」を団体内に設立した。 令和元年7月には、第1回委員総会を開催し、全国の弱視当事者から様々な困り事が寄せられ、全国規模での弱視問題の解決が必要であることを確認することができた。 今後、同部会では、全国規模で弱視者に対する理解を進めるための各種取り組みを実施していくこととなっている。</p>	<p>（１）参考： http://nichimou.org/all/news/secretariat-news/190122-jimu/ （２）参考： http://nichimou.org/notice/190827-jimu/</p>
新	厚生労働省社会保障審議会障害者 部会	審議会開催前の事前説明、事前のデータ送信（テキスト、点字データなど）、当日の資料配布（点字など）などが行われており、視覚障害者に対する情報提供が円滑になされている。	https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-hosho_126730.html

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	自社のホームページで、聴覚障害者むけの手話問い合わせ窓口を開設している企業	<p>問い合わせやサポートの窓口が電話だけという会社が以前は多かった。 →合理的配慮の提供の観点から、手話で対応出来る窓口を設ける企業が増えている。</p> <p>2019年10月20日現在、手話で対応可能な窓口を提供している主な企業</p> <p>■交通機関 ANA専用代理電話サービス 日本航空遠隔手話通訳サービス JR東日本山手線内全インフォメーションセンター</p> <p>■クレジットカード会社 JCB手話デスク 三井住友カード手話・筆談サービス 三菱UFJニコス手話サービス 楽天カード 手話通訳サービス Yahoo! JAPANカード手話通訳サービス ジャックス（JACCS） 手話・筆談通訳サービス</p> <p>■保険会社 損保ジャパン日本興亜手話通訳コールセンター 損保ジャパン日本興亜ひまわり生命手話・筆談コールセンター 三井住友海上手話通訳サービス ジブラルタ生命手話・筆談サービス SBI損保の手話・筆談サービス PGF生命手話（筆談）・チャットサービス</p> <p>■銀行 三菱UFJ銀行 群馬銀行 トマト銀行 おかやま信用金庫</p> <p>■その他業種 花王・ニベア花王手話ご相談窓口 カネボウ化粧品手話ご相談窓口 くらしど24・あんしど24 京王プラザホテル聴覚障害者向けサービス エルズサポート 手話・筆談サービス 大崎市民病院コールセンター診療予約</p>	
新	警察庁	<p>聴覚や言語に障害のある方など、音声による110番通報が困難な人への対応として、これまでも県レベルでメールやWebで対応する取り組みが行われていたが、地域毎に対応方法が異なることもあり、出先からの通報などが不便であった。 →全国どこでも統一された使い方が出来るよう、警察庁より、スマートフォン等を利用した緊急通報「110番アプリ」が、2019年9月25日より運用開始された。全国どこからでも、「110番アプリ」を利用することができ、スマートフォンからの位置情報を基に、通報時にいる場所の県警につながる。</p>	

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	気象庁	気象庁の緊急会見などの情報発信が聞こえない人に届きにくく、命にかかわる問題となっていた。 →2019年7月より緊急記者会見での手話通訳配置が24時間体制での試行実施となり、2019年8月14日午後2時より行われた、台風10号に関する緊急会見ではじめて手話通訳者が配置された。以降の各所の避難勧告・指示、特別警報、地震等の緊急会見に手話通訳がつくようになり、聞こえない人にも緊急を要する情報が伝わるようになった。	
新	沖縄都市モノレール株式会社	沖縄都市モノレール線（ゆいレール）の那覇空港駅から儀保駅の区間で、すべての駅の上下線の、車椅子用の乗降口について、車両とプラットホームの段差や隙間をリモコンスイッチで解消できる車椅子乗降装置「ラクーブ」を整備している。また、2019年10月に開業した首里駅からだご浦西駅の区間では、上下線のすべての駅で車椅子使用者が単独乗降できるようになっている。	https://www.yui-rail.co.jp/howto/b-free/
新	東京都	ヘルプマーク 人工関節を使用している東京都議会議員の質疑・提案で、東京都が考案・開発したマーク。 平成24年10月から東京都が都営地下鉄を中心に配布を開始。 (対象者) 義足や人工関節を使用している人、内部障害や難病の人、妊娠初期の人、精神疾患など、援助や配慮を必要としている人。 (効果) 身体障害者手帳がなくても、もらえる。デザインがはっきりしていて、目立つので、外出時に携帯すると、周囲の方が気付いてくれる。 ・2014年10月から、ヘルプマークの配布や優先席へのステッカー標示が、都営地下鉄大江戸線で開始された。 ・2013年7月から、都営地下鉄全線、都営バス、都電荒川線、日暮里・舎人ライナーで開始。 ・2014年7月から、ゆりかもめ、多摩モノレールへと拡大。民企業への働きかけも実施。	
新	ひたちなか海浜鉄道 福井鉄道、えちぜん鉄道	鉄道の難病患者への運賃割引 茨城県内を走行する「ひたちなか海浜鉄道」で、2018年7月8日（日）より全国に先駆けて難病患者を対象とした運賃割引適用（半額）が開始。 2018年10月からは福井県の福井鉄道、えちぜん鉄道でも同様の割引が開始された。	
新	三重県	難病患者への施設割引 動物園、美術館、水族館等の公共施設の難病患者の入場料が身体障害者手帳所有者と同様の減額または無料。駐車場も同様。	
新	三重県	小学校への講師派遣 小学生の教育のため、三重県のユニバーサル班による小学校での授業に講師派遣	

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	身体障害者補助犬を推進する議員の会／特定非営利活動法人 日本補助犬情報センター	<p>第7回【ほじょ犬の日啓発シンポジウム2019】</p> <p>2019年5月23日（木） 主催：身体障害者補助犬を推進する議員の会 会場：参議院議員会館 1F 講堂 テーマ「2020に向けて何が変わるのか？～日本の障害者を取り巻く現状と課題から見えてくるもの～」 ※ 入場無料 ※ 情報保障・支援：手話通訳 & UDトーク あり 第一部 「2020に向けて何が変わるのか？～日本の障害者を取り巻く現状と課題から見えてくるもの～」 石川 准 氏（国連障害者権利委員会副委員長・静岡県立大学国際関係学部教授） 第二部 「補助犬ユーザーと防災 ～様々な事例紹介やワークを通して～」 北村 弥生 氏（国立身体障害者リハビリテーションセンター）</p>	<p>第7回【ほじょ犬の日啓発シンポジウム2019】 Facebookイベントページ https://www.facebook.com/events/2010822525892398/</p>
新	モフカMOFCA千代田区障害者よろず相談／特定非営利活動法人 日本補助犬情報センター	<p>補助犬の仕事、補助犬たちと暮らしている人たちの困りごと（視覚障害・肢体不自由・聴覚障害）について、自分達にできることはなにかを一緒に考える機会とする。 （場所）モフカMOFCA千代田区障害者よろず相談</p> <p>2019年6月26日【安藤親子トークショー & 手話歌ミニライブ♪ in 補助犬よろず相談】 ・盲導犬・介助犬・聴導犬といった「身体障害者補助犬（ほじょ犬）」の中で、一番認知度が低い聴導犬ユーザーの生の声を届け、聴覚障害について、聴導犬について知ることができるイベント。</p> <p>2019年7月31日【モフカ夏休み親子イベント☆ 自由研究☆楽しく福祉について知ろう！】 ・補助犬について、子ども達にわかりやすく紹介。自由研究にぴったりなUDワークショップ（ミニ手話講座など）も開催。</p>	<p>「知る」ことでまちをどんどん好きになる 第2弾【障がい理解交流会】Facebookイベントページ https://www.facebook.com/events/1007663382770685/</p>
新	Kosha33ライフデザインラボ／特定非営利活動法人 日本補助犬情報センター	<p>2019年8月8日【ほじょ犬ってなあに？～夏休み自由研究特別企画～】 ・補助犬について、子ども達にわかりやすく紹介。 （場所）Kosha33ライフデザインラボ（横浜市）</p> <p><1部> ・ほじょ犬3種について知ろう！～障がいの社会モデルを知る～ ・実際に補助犬と生活をするユーザーさんのお話を聞いてみよう！ ・自分たちにできることを考えよう！ ・手話シンガー 安藤一成さん による手話歌「ほじょ犬って知ってる？」をみんなで手話を覚えながら歌おう♪♪♪</p> <p><2部> 14：00～14：45 ※20名 ・UD（ユニバーサルデザイン）ワークショップで楽しもう！ ・①手話 ②点字・アイマスク のグループに分かれてUDを体感しよう！今日からキミもUD博士だ！</p>	<p>【ほじょ犬ってなあに？～夏休み自由研究特別企画～】 Facebookイベントページ https://www.facebook.com/events/324257105170242/ https://www.kodomoto.info/spots/141046PQTH</p>

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	みなとくらすルーム／特定非営利活動法人 日本補助犬情報センター	<p>「知る」ことでまちをどんどん好きになる 第2弾【障がい理解交流会】 2019年9月10日（場所）Kosha33ライブデザインラボ（横浜市） 普段同じ街に暮らしていてもなかなか交流することのない人同士が対話する交流会。 聴覚に障害のある方と視覚に障害のある方が参加し、一緒に「普段の何気ないこと」や「いつもは聞きづらいこと」などを話し合う。（情報保障・支援）手話通訳・UDトークあり</p> <p>（内容） ・企画趣旨と障がいの社会モデルの説明 ・障がい当事者講師による障がいを想像するための体験ワーク ・グループに分かれてワークショップ ・私もあなたも「助けて」と言いつらい？ 言い出しやすくするには？ ・コミュニケーションをはかるためのコツは？ ・ふれあい交流の広場の紹介 など</p>	<p>「知る」ことでまちをどんどん好きになる 第2弾【障がい理解交流会】Facebookイベントページ https://www.facebook.com/events/1007663382770685/</p>
新	特定非営利活動法人 日本補助犬情報センター	<p>【修学旅行生向けスタディツアー：補助犬を通して『障がいの社会モデル』を知ろう！】</p> <p>修学旅行生向けに、補助犬3種の役割と、3種の障がい（視覚障害・肢体不自由・聴覚障害）について知ると同時に、『社会モデル』という概念をイラストでわかりやすく解説。（情報保障・支援）手話通訳・UDトークあり （日時）年間複数回実施 1ツアー2時間 （場所）東京人権プラザ 他 （講師）実際の補助犬ユーザーである松本江理氏&聴導犬チャンプ。 （内容） ・補助犬3種の紹介と障がいの社会モデルの説明（動画紹介） ・障がい当事者講師による障がいを想像するための体験ワーク ・グループに分かれてワークショップ ・自分達にできることはなんだろう？ など</p>	<p>企画紹介特集記事（1事例）第9回【ママボランティアがゆく！】補助犬レポート https://www.jsdrc.jp/ud_repo/no09_ud/</p>
新	公益財団法人 日本補助犬協会	<p>「ほじょ犬と学ぶ”心のバリアフリー勉強会・検定”」の開催 「心のバリアフリー」の普及・浸透を促進するため、2018年度にスタートした「心のバリアフリー検定」に興味をお持ちいただいた企業・団体の内部イベントとして開催する「ほじょ犬と学ぶ”心のバリアフリー勉強会・検定”」を実施している。今後、経済団体等と連携してこの活動を充実・強化していく。 これまでの開催実績は次のとおり。 ○企業での開催 ・株式会社電通（2018年9月14日・250名） ・電通共済生協（2019年1月24日・148名） ・株式会社大塚商会（2019年3月11日・70名） ・全国銀行協会（2019年9月26日・100名） ・トヨタ自動車株式会社東京本社（2019年10月11日・150名）※「障がいのある方の移動について考えよう」の中で実施</p>	
新	公益財団法人 日本補助犬協会	<p>○防衛省（市ヶ谷）での開催（2019年7月25日・120名） 防衛省内勤の職員、自衛官を対象に「ほじょ犬と学ぶ”心のバリアフリー勉強会」を実施した。今後、各基地、駐屯地、関連機関での開催を推進していく。</p>	<p>https://www.facebook.com/hojyoken/posts/2945892238968577?</p>

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	公益財団法人 日本補助犬協会	○法務省との連携による少年院での情操教育 法務省「少年院における動物（犬）介在活動等検討会」外部アドバイザーとして、市原学園にて補助犬介在授業および心のバリアフリー授業を実施した。（2019年2月26日・36名） 2019年度は「心のバリアフリー」を組み込んだ前・後半のプログラムを年3回に整備し、 ～ほじょ犬と学ぶ「心のバリアフリー」授業～を実施している。 2019年度実施実績：第1回 前半プログラム 5月16日、後半プログラム 6月20日 第2回 11月、第3回 1月 予定	
新	立教大学しょうがい学生支援室 * 立教大学の表記にしたがって、「しょうがい」の表記としています。	しょうがいのある学生の学びへのアクセシビリティを高め、しょうがいのない学生と同等の教育を受ける権利を実現できるよう支援を行うことを基本姿勢として、支援を「受ける側」「する側」という一方通行のサポートではなく、お互いが学び合う双方向の活動としている。 しょうがいの有無に関わらず、支援に関わるすべての学生が、さまざまな学生や教職員等との出会いを通じて、共に学び、社会で共に生きていける人材へと成長できるよう支援し、しょうがい学生支援を通して、支援に関わる教職員の、ひいては大学全体の教育力・学生支援力の向上へつなげている。 また、バリアフリー講座やゴールボール体験会など、学生や教職員を対象としたイベントを毎年開催しているほか、学外者も参加できるような公開講演会も開催している。講演会ではより多くの方にご参加いただけるよう、手話通訳、学生スタッフによるパソコンテイク・移動サポート等の支援を行っている。	立教大学しょうがい学生支援室 https://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/barrier_free/overivew.html
新	ルーテル学院大学 * ルーテル学院大学の表記にしたがって「障がい」の表記としています。	障害者基本法の理念に則り、全学的組織としての障がい学生支援委員会を設けている。 以下の障がい学生支援方針に基づいて、一人一人への合理的配慮（たとえば、盲ろう学生へのパソコン通訳、触手話通訳体制など）を実践している。 ・障がいのある学生が主体的に学ぶことができるように教育の質の向上に努めること ・障がいのある学生が利用しやすいように施設設備のアクセシビリティ環境の向上に取り組むこと 誰にでも利用しやすい開かれたキャンパスの整備を行う。 ・障がいのある学生が主体的に大学生活を送れるように支援すること 障がいの有無に関わらず、学生・教職員・キャンパスに集う全ての人がお互い支え合うことができる心のバリアフリーを目指す。	ルーテル学院大学 https://ru-teru.com/?utm_source=ss&utm_medium=cp&yclid=YSS.1001067853.EAIaIQobChMI8ajhrMCv5QIVAmoqCh3WAws4EAAYASAAEgLFvD_BwE
新	山形県 登府屋旅館	実父の介護経験から小規模の宿ほどユニバーサルデザインに適しているという社長の考えのもと、施設改修を試みてきたが、2018年に新規で作ったバリアフリー対応の貸切風呂は滑り台のようなスタイルの湯船があり、入浴の可能性を広げた。これは障がい者と共に開発した。また、定期的に落語会も開催し、お客様の宿泊時間をよりよいものに催しを提供する姿勢も素晴らしい。（20室前後の小規模施設）	
新	新潟県 ひなの宿とせ	標高1000メートルに群生するブナ林に近く、新潟県内でも積雪の多い秘湯とも呼べる松之山温泉。木を基調としたぬくもりある旅館に、デザイン性に富むユニバーサルルームがある。障害者や高齢者に関わらず、違和感なく一般の人も楽しめるユニバーサルルームが好事例。（20室前後の小規模施設）	

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	秋田県 別邸つばき	「旅館は非日常。身体が不自由であることが忘れられるように」と極力手すりは設置せず、つかまりやすい柱や框を設置している。また多目的トイレなどは一般的にはピトグラムで表記するところ、ここはやわらかなタッチのイラスト表記で掲示しており、表記の仕方にも工夫がある。（20室前後の小規模施設）	
新	長野県 ホテル玉之湯	老いた夫婦だけで宿泊しても温泉に入浴できるようにと、貸切風呂には入浴用リフトを設置。（20室前後の小規模施設）	
新	東京都 京王プラザホテル	ユニバーサルデザインに徹した施設の好事例は言うまでもないが、心のバリアフリーの意識啓発に取り組む「ボランティア・プラザ」は16回を迎える。ボランティア・プラザとは、バリアフリー活動を支えるホテルのスタッフによる、社会貢献を目的とした労使主催のチャリティーイベント。2019年夏に開催した際には総勢500名もの参加者を集めた。またアームチェア等、独自で開発したユニバーサルデザインの優れた補助器具も多数。	
新	かんぼの宿	全ての宿泊施設がバリアフリー化を徹しており、補助備品も充実。バリアフリールームや貸切風呂には、移動困難なお客様に便利なリフトも設置されている。施設の充実度では参考にするべき点が多数ある。	
新	旅行新聞社「ピンクリボンのお宿」	乳癌の手術をうけ、術後の傷痕を気にして旅を諦めている女性に向け、北海道から沖縄までの約100軒以上の加盟旅館が取り組む。具体的には「貸切風呂あり」「露天風呂付客室あり」「大浴場に間仕切りあり」「入浴着の着用可能」「入浴着の販売をしている」「入浴着のレンタルをしている」「タオルを多めに用意している」「脱衣所の明るさが調整できる」「脱衣所に工夫をしている」等、それぞれの旅館で様々なサービスを実施しているが、女将自身が乳癌患者である旅館もあり、その心配りがあたたかい。	
新	新潟県妙高山麓温泉郷（赤倉温泉、池の平温泉、妙高温泉）の女将の会	「Myoko Think Pink」の活動。手術痕やなんらかの理由で身体に傷がある人も、気兼ねなく温泉をたのしむために、傷痕を隠すガーゼ地タオルを開発。1枚500円で販売中。脱衣所には「手術など体に傷がある方も、温泉 入浴を愉しんで頂きたい。このタオルは浴槽の中で使用しても衛生上の問題は一切ありません」と張り紙が掲示してある。	
新	岐阜県「ふらっと旅ぎふ」	日常的に車いすを利用する当事者が岐阜県の観光名所を訪ね、旅のレポートを掲載。前向きな文章に、読者は「ああ、自分も楽しめそう」と思えるはず。	
新	宮城県 みちのく庵	10室しかない小規模旅館であり、玄関で靴を脱ぎ館内に入る純和風の旅館としての好事例。バリアフリーやユニバーサルデザインといった言葉を使用せず、「和すい〜と」と表記し、一番贅沢な部屋は障がいを持つ人も、一般の人も使いやすいというユニバーサルデザインという点で好事例。（10室の小規模施設）	

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	愛知県美浜町	平成30年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」の取組で、スポーツ施設において、障害のある人や支援が必要な人に対し、どのように対応しサポートが必要かを分かりやすく解説したマニュアル本（DVD）を作成した。	<p>タイトル：障害のある人への配慮を工夫したスポーツ施設利用マニュアル 主な内容：はじめに「障害のある人とスポーツ」 第1章「障害の分類と概要」 第2章「施設利用時の配慮とポイント」 第3章「誰もが楽しめる障害者スポーツの紹介」</p> <p>http://www.mext.go.jp/prev_sports/comp/a_menu/sports/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/06/13/1416557_009_1_1.pdf</p>
新	宮崎空港ビル 三菱重工交通機器エンジニアリング	<p>日本初の小型機対応ロング旅客搭乗橋（PBB）「ひなたらくちんブリッジ」の開発・新設を実施。 これまで100人乗り未満の小型機では、搭乗口の位置が小型機によって違いがあることから通常の旅客搭乗橋が使えず、雨の中一旦地上に降りて徒歩やバスで移動となっていたが、この状況を解決するため、両社共同で粘り強く研究開発を進めた結果、日本初となる小型機対応ロング旅客搭乗橋（PBB）が完成し、2基設置し、実際の運用を行っている。また、小型機以外の旅客搭乗橋についてもステップレス旅客搭乗橋を3基設置し、高齢者や体の不自由な方の不便を解消し、利便性を高めることが出来た。 （※第12回国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰 受賞）</p>	<p>http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/sosei_barrierfree_tk_000166.html</p> <p>https://www.miyazaki-airport.co.jp/torikumi/hinatarakuchinbridge</p>